

あらためて 不登校の未然防止と早期発見

—不登校支援担当教員連絡会から—

実践

疲れがたまり、欠席が増える時期。10校の不登校担当教員の先生方からの、すぐに使える具体的な実践を紹介します。



- ◎朝の電話対応を教職員全員でできるように簡単なマニュアルを電話近くに置く
- ◎声の音量や音質に配慮して柔らかく声がけし、笑顔で接する
- ◎小中連携、地域との連携で何ができるか話し合った
- ◎入学式に登校できていない生徒の出身小学校とのやり取り
- ◎担任と不登校担当(学年主任)で家庭訪問
- ◎4月に保護者の気持ちを全教職員で共有
- ◎欠席ボードに欠席理由を記入
- ◎朝登校できていない児童生徒をどうするか相談を受け、誰がどう対処するか決めた
- ◎不登校対応に困っている教職員が困っていることを発信するシステムづくり
(迷惑ではないという雰囲気づくり)
- ◎人権教育、生徒会活動とタイアップして居場所づくり
- ◎別室で個別活動をしている児童生徒を学習室をつくり少人数の交流ができるようにした
- ◎学校に登校している間に何ができるか熟考・厳選する

対策や工夫を重ねているが、なぜ不登校の児童生徒数は増加するのだろうか



— 中学校 —

- ・初期対応の遅れ
- ・家庭訪問未実施等、保護者とのつながりの希薄さ
- ・いつまでも学校が落ち着かない状態の長期化
- ・ストレスやエネルギーを発散させる場の確保の難しさ

— 小学校 —

- ・生活習慣の乱れ
- ・行事中止:行事に代わる自己有用感育成の場が設定できなかったこと
- ・PTA活動の中止を含め保護者との関係性の変化
- ・見通しが立たないことへの教職員、保護者の不安にどう対処するか不明瞭



どの学校でもできる未然防止、初期対応は? 「特に大事な対応」

電話連絡編

- ◇朝の電話対応:必ず休む理由を聞く、朝の会のうちに教職員が連絡を一度入れる
- ◇心配している気持ちが伝わるメッセージを伝える
- ◇体だけでなく心の状態も尋ねる(児童生徒だけでなく保護者の状態も)
- ◇保護者の困り感を聞く、信頼関係を築く(研修でロールプレイングをする)



家庭訪問

- ◇定期的な家庭訪問(週の後半)、目的をもって家庭訪問
- ◇頭痛・腹痛・体調不良にアンテナを張り、話を聞く+家庭訪問



情報収集

- ◇週1回情報の整理と手立ての検討、職員会で情報共有
- ◇小学校のときの欠席状況の把握
- ◇欠席生徒に連絡をするとき、現在の学習内容等組織的に把握して電話連絡
- ◇ホワイトボードに欠席理由も記し、3日連続欠席は赤丸、登校したら見え消しする

まず始めよう 連休明けに安心して登校できるために

大型連休はリフレッシュのチャンスでもあり、学級開きの振り返りの時期でもあります。私たち大人も休み明けは腰が重いもの。児童生徒にとって“学校に行きたい”連休明けとなるか、振り返りと準備をしましょう。

CHECK



未然防止

- **教室づくり** 一さわやかな一日の始まりができる環境を一学習用具の整備をしておきましょう。授業の始まりの机を想像します。学級通信で、今後何がいつ必要かのお知らせをしましょう。見通しを立てられるようにし、連休明けの登校のハードルを下げましょう。朝は学級に早めに行き、窓を開け、登校してきた子どもに笑顔で挨拶しましょう。子どもを観察し、朝の時点で気になる様子があれば、その日のうちに休み時間などに声をかけましょう。
- **ルールの再構築と確認** 一ルールが確立されれば安心して過ごせます一今年のクラスのメンバーで、現在のルールはしっかりきていますか？朝の会、掃除、給食、係活動、回収システム、学活、帰りの会…連休明けに一時一事で確認していきます。
- **児童生徒と一緒に** 一児童生徒の気持ちを分かろうとする教師に一朝読書や掃除を子どもと一緒にしましょう。同じ目線で活動することで気づくことがあります。また、先生の姿は子どものお手本です。
- **自分の意見をアウトプットできるしかけ** 一発表が苦手な児童生徒のために一授業では、各教科のルーティーン（決まり事）、指示カード（視覚化）、学校全体のルールを確認しましょう。学びあいの土壌を整える時期です。意見を言えない子どもも思いを発信できるようにしましょう。先生がアンテナを張るだけでなく、思いを表現できるシステムをつくっておきます。例えば、ノートに書く時間を確保する、日誌に書いた意見を本人から承諾を得て学級通信に紹介する、ホワイトボードやタブレット、付箋などをすぐに使えるようにしておくことなどが考えられます。
- **認める・認められる人間関係づくり** 一教師の認める姿が見本に一先生が見てくれている安心感と子ども同士が認め合う嬉しさは、家庭での会話のきっかけになります。「楽しかった！」と言える一日を目指しましょう。登校する勇気となる行事や特別活動を連休明けに予定するなど学校として工夫されていることと思います。そこでさらにひと手間。活躍したこと、してもらって嬉しかったこと、私だけが知っている〇〇さんのいいところなどを紹介できる場面を設けると効果的です。



早期発見

- 学校として欠席の児童生徒を早く知る方法を確立させましょう。
- 児童生徒を支えるリソース（資源）を掘り起こしておきましょう。
- 児童生徒が何に不安を感じているのか、アンテナを張りましょう。
- 児童生徒とつながりをもつよう心掛けましょう。まずは児童生徒の思いを理解し、信頼関係を築くことを第一に優先させ接していきます。

